

2008年度事業報告書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

1 2008年度事業の成果

2007年度の活動を引き継ぎ、下記に記した諸事業を行った。5月に横浜で開かれた第4回アフリカ開発会議（TICAD）、7月に洞爺湖で開かれた主要国首脳会議（G8サミット）に向けたNGOによる取り組みに参加し、求められた役割を果たした。TICAD フォローアップの取り組み、G8サミットに関わったNGOによる取り組みを引き継ぐ活動を、多くのNGOと共に前進させた。他のNGO、研究機関と協力して連続公開セミナー「食料価格高騰がアフリカ諸国及ぼす影響」を実施した。子どもゆめ基金の助成を得て実施したアフリカンキッズクラブの活動報告書を作成、配布した。

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	支出
アフリカ支援事業	<ul style="list-style-type: none">・ AJFに派遣されているエイズ予防財団リサーチ・レジデントと連携して在日アフリカ人コミュニティへのエイズ啓発、個別支援の事業を実施。・ エイズ予防財団リサーチ・レジデントと連携して、アフリカンキッズクラブを2008年6月、11月、2009年2月に実施。・ 在日アフリカ人コミュニティのミーティング実施などに協力。	1,644,101円
ネットワーク形成事業	<ul style="list-style-type: none">・ JANIC、GII/IDI・NGO連絡会に加盟。・ UNHCRと連携するNGOネットワークであるJ-FUNに参加。	60,000円
アフリカ調査・研究事業	<ul style="list-style-type: none">・ 食料安全保障研究会：公開セミナーを2008年10月、2009年3月に開催。・ 2008年5月、HFW、JVCと食料価格高騰問題に関するセミナーを開催し記者会見を実施。・ 2008年7月～12月、HFW、JVC、明治学院大学国際平和研究所と連続公開セミナー「食料価格高騰がアフリカ諸国に及ぼす影響」全5回を開催。・ メルマガ「グローバル・エイズ・アップデート」を定期発行（92号～116号）。	31,005円
政策提言事業	<ul style="list-style-type: none">・ 2008年G8サミット・NGOフォーラム貧困・開発ユニット運営NGOとして活動。・ TICAD ・NGOネットワーク運営委員として活動。・ ほっとけない世界のまずしさを始めとするNGO、国際機関と協力してスタンドアップ2008を実施。	4,629,012円
アフリカ理解促進事業	<ul style="list-style-type: none">・ アフリカンフェスタ2008、グローバルフェスタ2008へ参加。・ 会報「アフリカNOW」第81号、第82号、第83号、第84号を発行。・ 「アフリカひろば」を計6回開催。・ ウェブサイトの更新。・ メールマガジン「AFRICA ON LINE」発行（436号～487号）。・ 千代田区平和パネル展でのアフリカNGO活動紹介をコーディネート。・ 外務省NGO相談員事業を受託し、多数の質問・相談に対応。また、専門学校、大学への出張サービス（8回）を行って国際協力とNGO活動、アフリカの課題についての授業・講演を実施。・ 小学生、中学生のNGO訪問（3回）、NGO体験（1回）を受入。	3,874,837円

3 会の運営に関する事項

事務局家賃、事務局員人件費、事務消耗品購入費、通信費、広告宣伝費などに5,778,200円を支出した。

【2008年度、二つのトピック】

1) TICAD IV・G8サミットへのアドボカシーの成果を引き継ぐネットワーク事務局へ

会議でなされたプレッジは、どれだけ実行されつつあるのか？

昨年5月、横浜で第4回アフリカ開発会議（TICAD）が開かれてからすでに1年が経ち、7月に開かれた洞爺湖G8サミットからもやがて1年が経とうとしています。

昨年日本で開かれたこの二つの国際会議は、どちらもアフリカの課題に大きく関わっています。そのため、TICAD・NGOネットワーク（TNnet）と2008年G8サミット・NGOフォーラム（NGOフォーラム）貧困開発ユニットは、昨年3月にガボンで開かれたTICAD 閣僚級会合に向けた取り組みから、洞爺湖サミット関連の取り組みまで、連携して政策提言を行い、アフリカのNGOと連携する取り組みを行いました。

こうした取り組みによって勝ち取られた成果は、TNnet、NGOフォーラムそれぞれからその都度報告されてきましたし、また、それぞれのネットワークが解散時に出した報告書にまとめられています。また、TICAD に向けてアフリカのNGOスタッフが日本に1ヶ月滞在し、アフリカの市民社会の経験・取り組みを伝え、共通の課題について討議を深めるなど、アフリカのNGOとの連携も大きく前進しました。

とはいえ、会議でプレッジがなされれば課題が解決されるわけではありません。NGO・市民社会の視点で「会議でなされたプレッジは、どれだけ実行されつつあるのか？」をフォローし、アドボカシーを行っていく取り組みが必要とされています。

貧困のない世界をめざす世界的なネットワークの日本事務局（GCAPジャパン）を継承

国際会議終了後、TNnetは10月に、NGOフォーラムは11月に解散しました。また、同時期に、貧困のない世界をめざす世界的なネットワークであるGCAP（貧困をなくすためのグローバル・コール Global Call to Action against Poverty）の日本事務局を担っていた「（特活）ほっとけない世界の貧しさ」も解散。当会は、他のNGOとともに、GCAPの日本ネットワークの再設立に向けて努力を重ね、この3月に、貧困のない世界をつくるムーブメント「動く 動かす」（GCAP Japan）が、日本の国際協力NGO42団体の参加によって設立され、当会はその事務局を担うことになりました。「動く 動かす」は、AJF会員総会直前の6月17日に設立記念シンポジウムおよびレセプションを開催します。また、今年のSTAND UP TAKE ACTIONにむけた取り組みも開始しています。

一方、当会は、昨年10月には、「（特活）ほっとけない世界の貧しさ」や国連広報センター（UNIC）ほかとともに、2006年以来、市民社会、国連機関、アフリカ外交団、政府諸機関も参加して取り組まれているSTAND UP TAKE ACTIONの業務を担い、取り組みを成功させました。

TICADのフォローアップに関しては、今年2月東京で開かれたTICADプロセス・モニタリング合同委員会、3月にボツワナで開かれたTICAD閣僚級フォローアップ会合へのNGO参加を実現し、閣僚級会合では本会合でNGO代表がスピーチもしました。

事務局体制を強化

昨年7月に開いた2008年度第2回理事会で、AJFは、GCAPジャパン（現在、「動く 動かす」）の再設立に関わり、事務局を担うことを決定し、業務を遂行するために10月から職員を増員しました。現在、2人が「動く 動かす」の業務を中心的に担い、また2人がTICADプロセスに関わるNGOネットワークの業務を担っています。また、在日アフリカ人コミュニティとの共生事業のための資金獲得の努力、世界エイズ・結核・マラリア対策基金に関わるアドボカシー活動も行っています。

昨年度は、単年度予算としては、赤字決算となりました。これは、TICAD IV、G8サミットへの取り組みに多額の資金がかかったこと、また、その後の資金獲得のペースが、事務局体制強化による資金需要の拡大に追いついて

いなかったことによるものです。（詳しくは第一号議案をご覧ください）。今年度は、日本のNGO42団体を擁するネットワーク「動く 動かす」の事務局を担うことによる助成や事業収入の拡大や、STAND UP TAKE ACTIONに関わる資金調達の拡大などの取り組みを通して、業務拡大に見合う資金調達を実現していきます。

2)他団体、研究機関との連携を強化！

連続公開セミナー「食料価格高騰がアフリカ諸国に及ぼす影響」を共催

昨年2月、横浜でのTICAD開催にむけて、国連食糧農業機関（FAO）主催、横浜市およびAJF共催で「市民シンポジウム：アフリカの食と農を知る」が開催され、300人余りの参加がありました。このようにアフリカの食料問題への関心が高まっている中、食料価格高騰が世界的な問題としてクローズアップされ、アフリカの食料安全保障に強い関心を持つハンガー・フリー・ワールド、日本国際ボランティアセンターそして明治学院大学国際平和研究所とAJFが共催する連続公開セミナー「食料価格高騰がアフリカ諸国に及ぼす影響」が、昨年7月から12月にかけて5回開催されました。

今年5月には、この連続公開セミナーの成果物「飢餓を考えるヒント」を発刊し、同じく四者共催の連続公開セミナー「飢餓を考えるヒント」も開始しています。

障老病異がともに生きる社会を考える

立命館大学グローバルCOE「生存学」との協力の中から新しい視点を

AJF代表の林達雄さんが2007年4月に実施された立命館土曜セミナー「生存学」シリーズで講師を務め、また立命館大学特別招聘教授に就任して始まった立命館大学グローバルCOE「生存学」との協力関係は、生存学ウェブサイト内アフリカ関連情報ページ(<http://www.arsvi.com/0i/2-2009.htm>)の開設・更新、2007年7月のAJF事務局員稲場雅紀さんへの公開インタビュー（生活書院刊「流儀」に収録）、8月のスーダン障害者教育支援の会（CAPEDS）とAJF、生存学の共催による座談会実施と広がり、昨年度は、6月にAJF・CAPEDS・生存学共催公開座談会、10月に二つの座談会記録を収録した資料集の発刊、12月に「流儀」出版、AJF・JVC・生存学共催公開インタビューが実施されました。

今年度も、6月6日に公開インタビュー「視覚障害者留学生として日本で暮らす」を開催します。

主として日本の障害者、高齢者、病者そしてさまざまな少数者に関わる課題の研究者が多数在籍する生存学との交流・協力の中から、アフリカ障害者の10年、高齢者問題へアプローチする視点を学ぶことができ、他のNGOや国際協力機関へ提示することができると思います。

2008年の活動記録を、昨年末に送付した「2008 Annual Report アフリカひろば」に収録しています。今年4月に送付した2008年度アフリカンキッズクラブ報告書もご覧ください。

（作成：AJF事務局）